

記者発表				
月/日(曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤル)	発表者名 (担当名)	その他配布先
8月3日(金) 13:00	県立考古博物館	079(437)5589	加西分館長補佐 平田博幸 (事業課長 長濱 誠司)	北播磨県民局

千石コレクションの科学的研究に関する協定書の締結について

1. 研究の内容

兵庫県立考古博物館と日鉄住金テクノロジー株式会社は、日本および中国の歴史の解明に資する千石コレクションの銅鏡を中心とする中国古代の遺物及びその関係資料の科学的研究を共同で実施するため協定を締結する。

兵庫県立考古博物館が所蔵する千石コレクションは、幅広い年代と多くの種類を含むことから銅鏡をはじめとする青銅製品研究の基準となるデータ構築に資する価値を有するものである。

コレクションのうち30点について、使用している素材が朝鮮半島産であることが先頃明らかとなった松帆銅鐸で実施した分析と同様に、鉛同位体比分析、誘導結合プラズマ発光分光分析(ICP)などの化学分析を行い、考古学的な検討結果と組み合わせた統合的な研究を行う。

2. 期待される成果

この研究によって東アジアの銅鏡について、夏時代以降の連続する科学的分析の基準尺度(いわゆる時期のものさし)の作成が期待できる。

出土地不明の銅鏡について産地や時期が明らかになり、肉眼による鑑定を科学的に検証することが可能となるため、これまで評価が保留されてきた資料に新たな評価を与えることができる。

また、この基準尺度で国内外の鏡を分析すれば、日本で出土した中国系銅鏡や三角縁神獣鏡などの産地や系譜の特定、鑄造技術の研究の進展、さらには弥生時代以降の古代国家が形成される過程の歴史像の解明につながるなど、画期的な研究になると期待される。

以上のように、今回実施する銅鏡に係る化学的分析によって得られる研究成果は考古学と古代史の研究に多大な学術的成果をもたらすものである。